

觀 測 手 引

(11) 遊星面の觀測

水、金、土星の觀測

當課の仕事としては、火、木星の觀測を主としてゐるが、それ以外に、水星金星及土星の觀測も奨励し且報告を受理してゐるので、以下、この3遊星の觀測につき、その要點のみを記しておく。

水星——都會では勿論、田舎でも餘程都合が好くないと見られない。金星に比し視直徑も小さくて、小望遠鏡には適せず、尠く共15糎を必要とし、金星同様晝間高度の高い時に赤道儀の度盛環によつて探し當て、觀測するのが良く、肉眼に見られる様な頃は地平線上スレスレの時だから、そんな際は觀測は全然出来ない。大體としてアマチュアに適しない遊星である。が、表面の模様は、金星より濃く且安定してゐる。

金星——水星同様、晝間双眼鏡か度盛環を用ひて探索して觀測すべきである。表面は、何分厚い金星の大氣の上層を見てゐるのだから、判然とした模様は見えず、時々淡黒い斑紋や輝いた白斑が見えるが、特に後者の白斑をうまくキャッチして、これを連續觀測する事によつて、その自轉時間の決定に資するのだが、其觀測は非常に難しい。今迄、全世界での一流の天文學者が觀測した結果が、全部異つて居り、其差異も、全然桁が異ふのを見て如何に其觀測が難しく且正確なものか何ひ知られよう。され、10糎級にも出来る仕事だから、特志家を待つ。觀測方法は、晝間又は薄明の頃を狙ふのだが、淡いムーン・グラスを使用する事も秘訣の一つだが、或は15糎以上の反射鏡の銀をさつて觀測するのも一方法である。金星は光輝が強過ぎる星だから、必要に應じ、眩惑を感じない程度に減光させて見る様にする事が肝要である。全て、白く光つたものの上には薄暗い斑紋が見え易いと云ふ人間の眼の事だから餘程注意して觀測に従事すべきである。

土星——天界のビエロ、土星は、正直な所、難しく觀測をするより、其美しい姿を望遠鏡で心行く許り眺めてゐる方が楽しみなものであるが、記事の都合上觀測方法を述べる。木星より扁平率は強い。表面の模様は10糎にも認められるが、詳細は20糎以上を必要とするが、先年、白斑を發見されたのは16糎反射鏡だったから20糎以下でも決して不足ではない。

環(リング)を最も良く見る爲には、其最もよく開いた時を良とする。10糎になれば環が三重より成立つてゐる事が判りカッシーの空隙もシーイングさへ良ければ明瞭に見え、銳眼には最も内側の縮環(クレプ・リング)も認められる。15—20糎になれば、クレプリングは明瞭で、エンケの空隙も見えて来る。シーイングの良い時20糎以上の反射鏡に300倍以上を使用して見た土星の美しさは、星の愛好者へのみ天から與へられた最美の觀物である。木星よりも高倍率が使用出来る。環に寫つた本體の神秘的影等、他の遊星に見られない獨得の美景である。環が地球及太陽に對して水平になつた時は頗る淋しいが、この時は又別の興味がある。目下環は、年々開きつつあるから、益々その美しさを増して来る。觀望から一步進んで觀測に進んで頂き度い。(伊達生) ———(以上)———